

2025年中期経営計画の進捗

2025年中期経営計画の進捗状況

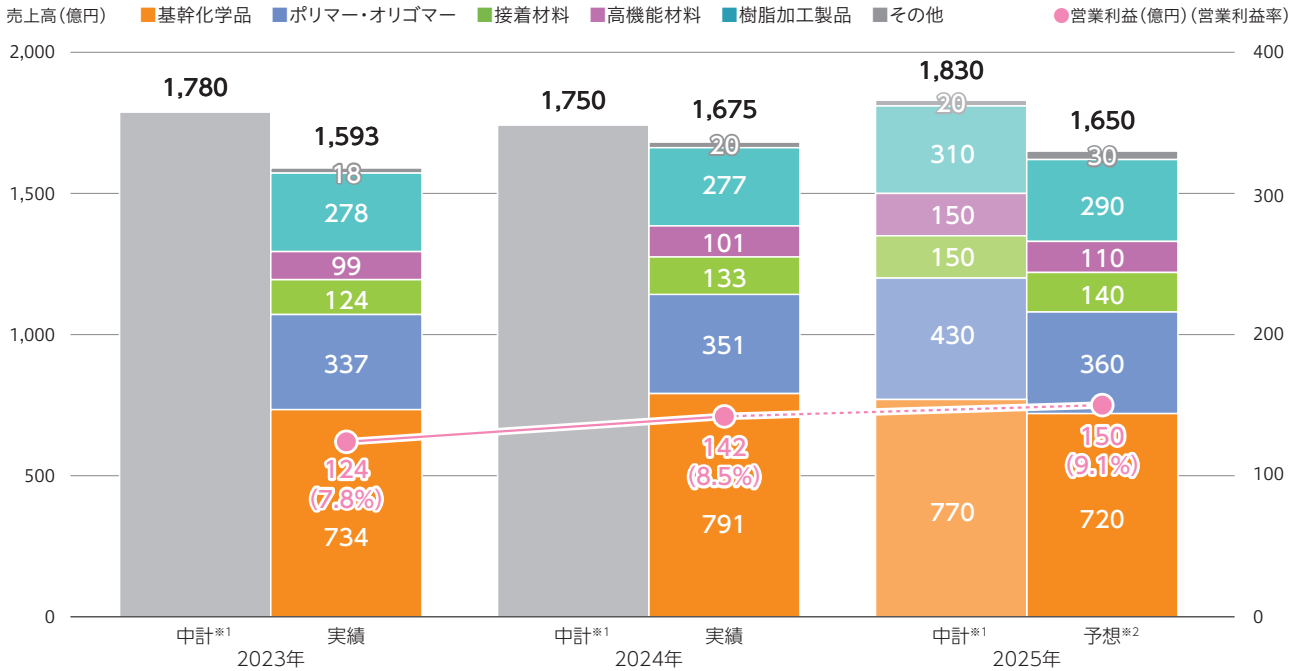
2024年実績と中計目標との差異

- 成長ドライバー（モビリティ、半導体関連製品など）は、モビリティ製品の伸び悩み、半導体市場の調整局面の長期化などにより、計画に遅れ。
- 人的資本投資としての賃上げ推進など、固定費の増大（労務費、減価償却費、研究開発費など）により計画未達。

◆数値目標

項目	2023年	2024年	2025年	2023年	2024年	2025年	2024年	2025年
		中計※1		実績		予想※2	中計比	中計比
売上高 (億円)	1,780	1,750	1,830	1,593	1,675	1,650	△75	△180
営業利益 (億円)	150	180	200	124	142	150	△38	△50
高付加価値品販売比率 (%)	43.0	46.0	48.0	44.1	43.6	46.2	△2.4	△1.8
海外売上高比率 (%)	19.8	21.8	22.1	16.7	17.3	17.8	△4.5	△4.3
設備投資 (億円)	128	290	262	154	269	253	△22	△9
研究開発費 (億円)	51	53	56	50	58	64	5	9
ROE(自己資本当期純利益率) (%)	6.4	6.7	7.3	5.8	5.6	6.1	△1.1	△1.2

◆売上高・営業利益計画



※1 2023年1月31日に発表した2025年中期経営計画における当初計画値
※2 2025年2月13日に発表した2025年12月期の連結業績予想値

2027年に向けた取組み

セグメント別注力事項

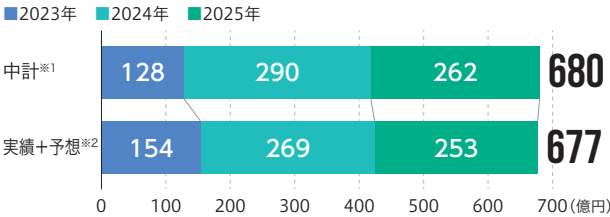
各セグメントにおいて、以下に示すような新規施策に取り組みます。新規施策の実施により、既存製品および高付加価値製品ともに拡販し、2027年の営業利益240億円を目指します。

セグメント	2025年	2025年～2027年	2027年
	営業利益(億円)	注力事項	営業利益(億円)
基幹化学品	80	継続 省エネ電解設備への更新 新規 陸上養殖薬液等の新用途展開推進 新規 不採算事業の再編成	80
ポリマー・オリゴマー	40	継続 車載電池用・半導体材料用ポリマーの拡販 継続 セルロースナノファイバー(CNF)の開発加速 新規 高分子凝集剤の生産性向上	60
接着材料	5	継続 瞬間接着剤の米国事業強化、東南アジア拡販 新規 モビリティ向け次世代電池用接着剤の開発	25
高機能材料	15	継続 高純度無機化学品の供給体制強化 継続 ドラッグデリバリーシステム(DDS)の早期事業化 新規 新規半導体材料開発推進	50
樹脂加工製品	26	新規 インフラ老朽化対策活動強化 新規 エコマテリアル製品の拡販	30
その他	△16	継続 再生可能エネルギーの導入推進	△5
合計	150		240

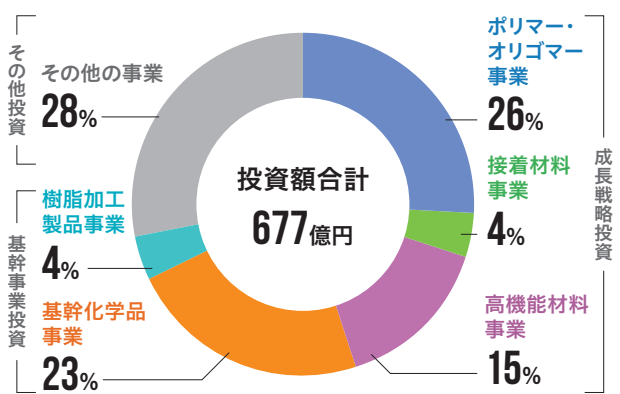
投資計画

2025年中期経営計画期間の設備投資額は677億円となる見込みです（計画680億円）。モビリティ、半導体、電子材料関連などの成長分野への投資を進め、将来の収益拡大へつなげていきます。

◆2025年中計期間 設備投資実績・予想(中計対比)



◆2025年中計期間 設備投資実績・予想(セグメント別)

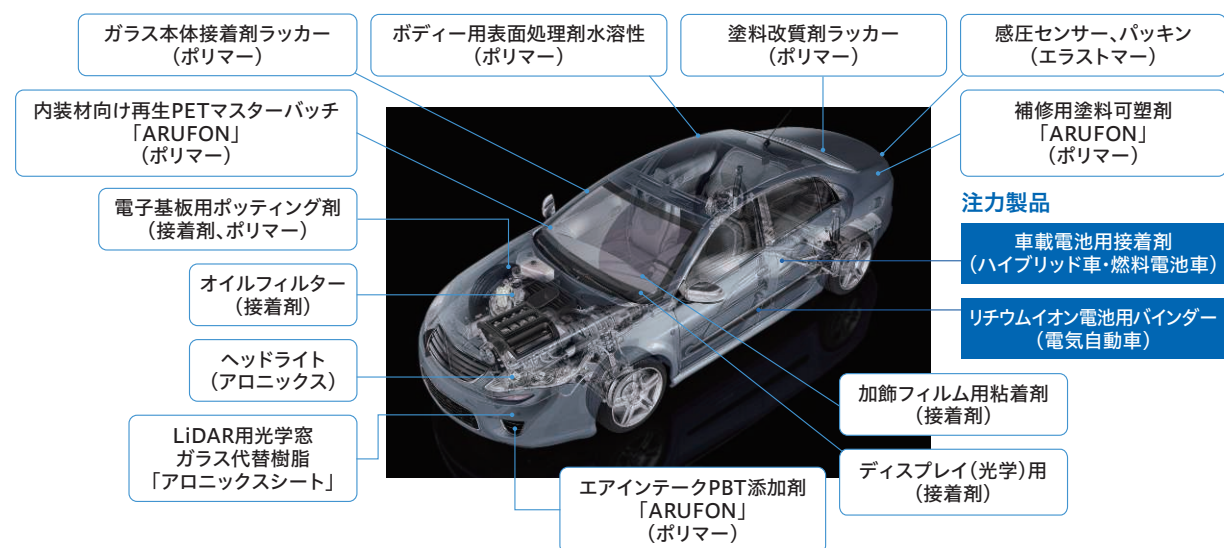


2025年中期経営計画の進捗

成長ドライバー（モビリティ）

FCV（燃料電池車）、HV（ハイブリッド車）、EV（電気自動車）、ガソリン車の全方位に展開

温室効果ガス排出ゼロや環境負荷物質の低減に向け、EVをはじめとするモビリティ産業に技術革新が求められています。当社は、ガラス代替樹脂や異素材接着剤、電子部品材料、リチウムイオン電池用部材など、車体の軽量化や電装化へのユーザーニーズを掴み、スピーディーな製品開発を展開しています。



負極の膨張抑制により電池の長寿命化に貢献

車載電池用接着剤は、採用車種の拡大により、2023年以降拡大を続けており、HVは引き続き好調であると想定しています。リチウムイオン電池用バインダーに関しては、EV減速と言われている中でも2024年から拡大基調となりました。EVは中長期的には確実に伸長すると想定しています。それに合わせて、経済産業省などからの補助金をいただき、2026年に新工場稼働の予定です。

■車載電池用接着剤（ハイブリッド車・燃料電池車）

バイポーラ型ニッケル水素電池を搭載している新型ハイブリッド車、燃料電池車に順次採用中。

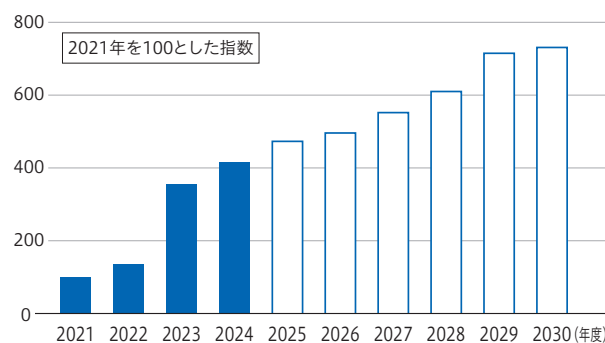
搭載車種

- MIRAI
- アクア
- クラウン
- LEXUS RX
- アルファード
- ヴェルファイア など



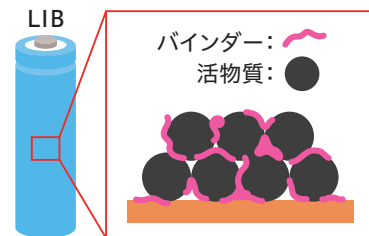
出典：トヨタ自動車株式会社

◆車載電池用接着剤 売上高推移

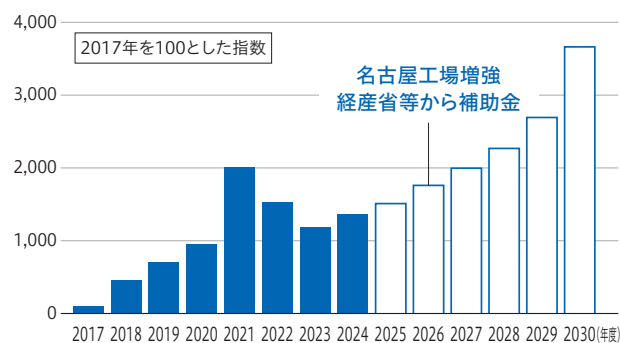


■リチウムイオン電池（LIB）用バインダー

負極の膨張抑制による電池の長寿命化。



◆LBポリマー 売上高推移

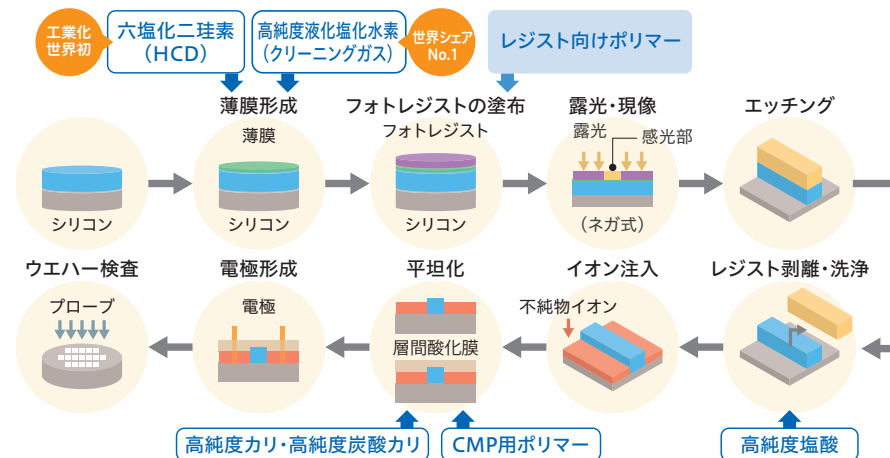


成長ドライバー（半導体）

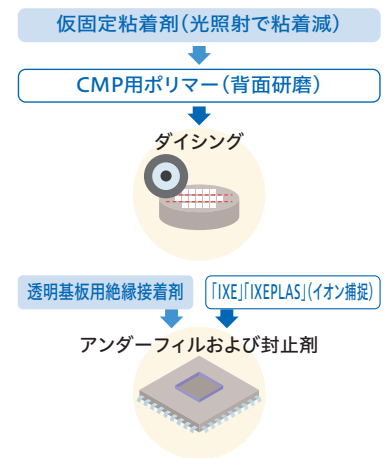
半導体製造用薬剤

AIによるデジタル技術を活用して、ビジネスモデルや社会構造を根本的に変革する動きが加速しています。当社は、半導体の製造に必要な不可欠な薬剤である高純度製品を展開しています。高純度製品は微細化に対応した高純度化や新規開発によって世界トップクラスの製品品質を誇っています。

◆前工程



◆後工程

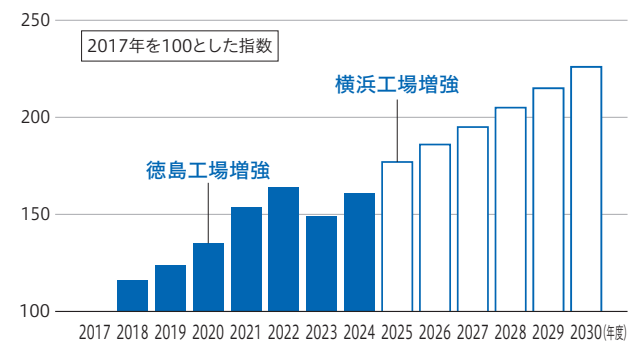


- 高純度液化塩化水素
- 高純度カセイカリ
- 高機能CMP用アクリルポリマー（用途：半導体製造時の洗浄・研磨）



当社では、塩酸やカセイカリなどの工業用薬品を原料として高純度製品を製造しており、半導体をはじめとする電子材料のエッチングや洗浄などに使用されています。半導体全体の回復はやや遅れ気味ですが、半導体の販売は今後も確実に拡大すると想定しています。それに合わせた早めの供給体制の整備と、さらなる微細化に対応した高純度化を進め、需要拡大を確実に取り込む体制で臨んでいます。

◆高純度液化塩化水素 売上高推移



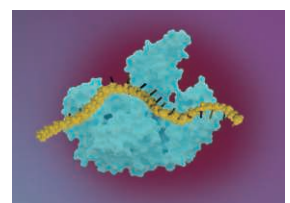
次期成長ドライバー（メディカル）

ナノ医療イノベーションセンターとsiRNA医薬の共同研究開始

2025年5月、乳がんの中で最も進行性で予後も悪く、ホルモン療法やHER2分子標的薬が効かないトリプルネガティブ乳がんに対する新たな治療用siRNA医薬創製に関する共同研究を公益財団法人川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンターと開始しました。siRNA医薬は、病気の原因となる特定の遺伝子の働きを抑える画期的な治療法で、高い標的特異性と持続的な効果が特長です。当社のRNAi（RNA干渉）に基づくsiRNAデザイン技術は、疾患の原因遺伝子の異常発現を効率よく直接制御するものであるため、様々な難治性がんをはじめ、神経疾患、希少疾患などの難病治療のほか、新種のウイルスによるパンデミック時の迅速な感染拡大防止などにも対応できると考えております。

共同研究の進展により、トリプルネガティブ乳がん患者の治療に新たなモダリティ※での選択肢をもたらすとともに、世界レベルでの様々なUnmet Medical Needs（未充足医療）に応えられるsiRNA医薬の創製を迅速かつ確に進めるプロセスを提供し、未来の医療に貢献してまいります。

※モダリティ…創薬基盤技術のこと。



RNAi（RNA干渉）のイメージ